



第6章 計画の実現に向けて

1 計画の実現・推進のための方策

■本計画に基づいた都市づくりの推進

本計画に定めた都市づくりの目標や将来都市構造の実現に向け、朝倉駅周辺の再整備や新たな住宅地及び産業用地を確保する市街地整備、都市計画道路等の都市施設整備といった具体的な事業の推進や事業化の検討により、本計画に基づいた都市づくりを推進します。

また、本計画は、本市の都市計画に関する総合的な指針としての役割を果たすものです。このため、都市づくりを推進していくに当たっては、本計画に基づき区域区分や用途地域等の土地利用に関する都市計画の決定・変更を必要に応じて行っていきます。

■官民連携による都市づくりの推進

具体的な事業の推進や事業化の検討に当たっては、効率的かつ効果的な事業推進のため、民間事業者の知識、技術、ノウハウ等が活かされるよう、民間事業者のアイデアの積極的な取り入れや資金を活用し、官民連携による都市づくりを推進します。特に、厳しい財政状況が見込まれる中においては、道路、公園等の公共用地や低・未利用地等を官民連携により有効に活用し、社会実験等できることから取り組みながら、都市の賑わいの創出に向けた都市機能の立地誘導や居心地がよく歩きたくなる市街地の形成等を検討していきます。

■地域活動・市民活動による都市づくりの推進

都市づくりを進めるに当たっては、ワークショップ等の市民が参加する機会を充実するなど、多様な市民の参画を促進します。また、地域住民自らが主体的にまちづくりを進めていくことができるよう地域のまちづくりを担う人材の掘り起こしや育成、都市計画の市民提案制度に対する行政の適切な支援等、コミュニティやNPO、市民活動団体等と市が連携しながら、市民協働による都市づくりを推進します。

■計画を推進する体制の構築

都市づくりを進めるに当たっては、庁内体制の充実を図るとともに、本計画を活用しながら、都市計画の分野に限らず、産業、教育、文化、福祉といった広範な分野との調整・連携を強化します。

さらに、本計画の実現には広域的な調整が必要不可欠であり、国、県等との協力・連携や協議調整を進めます。また、市民の生活圏や行動範囲は市域を超えて広がっていることから、近隣自治体とも協力・連携していきます。

■立地適正化計画と連携した誘導施策の展開

本計画の一部と見なされる立地適正化計画を策定することにより、拠点形成に向けた都市機能の誘導施策や居住誘導施策の展開を適切に図り、持続可能な都市構造の実現に向けた都市づくりを推進します。

2 計画の進行管理

本市の最上位計画である「第6次知多市総合計画」で掲げられた指標(重要業績評価指標(KPI))を用いて、本計画における5つの都市づくりの目標の進捗状況を定期的に把握します。

これにより、社会経済情勢の変化等を見極めながら、都市づくりの目標の進捗状況を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを適宜検討します。

都市づくりの目標	指標	基準値	目標値(方向性)	関連する主要な都市づくりの方針
【都市構造】 都市の顔となる拠点が形成され、市内外がネットワークで結ばれた都市	社会動態数 (転入者数 - 転出者数)	▲223人 (2018年)	↗	新市街地(住居系)の計画的な整備(P58、P69)
	子育て世帯の純移動数	▲232人 (2018年)	↗	〃
	駅周辺が機能的で利用しやすいと思う市民の割合	15.3% (2019年)	↗	朝倉駅周辺における機能充実(P55)、にぎわいある市街地への再整備(P69)
	コミュニティ交通の1便あたりの利用者数	11人 (2018年)	15人	公共交通の充実や利便性向上(P63)
	地域交通(バスなど)により市内の移動が便利であると思う市民の割合	22.0% (2019年)	↗	〃
	市内の企業や商店に活力があると思う市民の割合	17.7% (2019年)	↗	朝倉駅周辺におけるにぎわいある市街地への再整備(P69)
【市民生活】 日常生活を便利に安心して送ることができる市街地が形成された都市	市内に買物や外食で利用したい店があると思う市民の割合	40.6% (2019年)	↗	各地区の中心地における身近な商業地の形成(P56)
	住宅耐震化率	80.9% (2018年)	95.0%	民間建築物等の耐震診断及び耐震改修の促進(P74)
	行政や地域の防災対策により、安心して暮らしていると思う市民の割合	65.6% (2019年)	↗	「知多市地域防災計画」及び「知多市地域強靱化計画」に基づく安全で安心な都市づくりの推進(P74)
	消防・救急体制が充実していると思う市民の割合	83.1% (2019年)	↗	〃

都市づくりの目標	指標	基準値	目標値(方向性)	関連する主要な都市づくりの方針
【産業・交流】 (都)西知多道路等の広域交通を生かした人が集まる場・働く場が確保された都市	市内で働く市民の割合	35.7% (2015年)	36.3%	工業系の検討地区における計画的な市街地整備(P58)
	観光入込客数	927,233人 (2018年)	1,000,000人	観光交流系及び地域振興系の検討地区における計画的な市街地形成(P58)
	観光として魅力ある場所やイベントがあると思う市民の割合	20.0% (2019年)	↗	朝倉駅周辺における商業・交流機能の充実(P55) 官民連携による都市づくりの推進(P109)
【都市環境】 海・里山・公園といった恵まれた自然が保全・活用されとともに環境負荷が低い都市	知多市の自然、公園、家の周辺などの「まちの緑」に満足している市民の割合	69.5% (2019年)	↗	既存の都市公園の機能更新(P64) 住宅地における緑化推進(P65) 緑地の維持・保全(P72)
	コミュニティ交通の1便あたりの利用者数(再掲)	11人 (2018年)	15人	公共交通の充実や利便性向上(P63)
	地域交通(バスなど)により市内の移動が便利であると思う市民の割合(再掲)	22.0% (2019年)	↗	〃
【都市運営】 健全な都市運営による持続可能な都市	地域活動やボランティア活動に参加している市民の割合	27.2% (2019年)	↗	地域活動・市民活動による都市づくりの推進(P109)
	コミュニティ、町内会、自治会などの地域活動が活発に行われていると思う市民の割合	66.5% (2019年)	↗	〃
	青少年が地域の行事やボランティア活動に参加していると思う市民の割合	29.5% (2019年)	↗	〃

※指標、基準値及び目標値(方向性)は、「第6次知多市総合計画」から転記しています。

※目標値(方向性)は、10年後(令和11年度)の状態を数値化した目標値(方向性)を示しています。

※関連する主要な都市づくりの方針は、代表的な内容を記述しています。なお、()内の数字は、本編の該当ページ番号を表します。